

# あぜみち

No.7  
平成26年8月1日

営農センター TEL 782-1171

## 稲作技術情報

~目指せ一等比率95%!~

### 1. 生育状況・今後の管理について

現在の生育状況は、塩沢地区は、草丈やや短め、茎数やや多め、湯沢地区は、草丈短め、茎数多め、葉色は濃くなっています。出穂期は平年並みと見込まれます。今後、高温で経過した場合、土壌水分や後期栄養が不足し品質・収量低下が懸念されます。

2回目の穂肥は、後期栄養確保のため確実に施用しましょう。水管理は田面が乾きすぎないように、飽水管理を実施しましょう。

※2回目の穂肥以降に葉色が極端に褪める稲姿の場合は、出穂直前(3日前)の穂肥も検討して下さい。  
※基肥一発肥料を使っている圃場で、葉色がSPD値で32を下回る恐れがある場合、出穂10日~7日前に穂肥施用を検討して下さい。

#### 生育調査結果

7月25日現在

地区	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉色 (SPAD)
H26塩沢地区 (8ヶ所)	79.7	24.4	32.3
H26湯沢地区 (2ヶ所)	73.5	28.9	38.7
コシヒカリ指標値	83	21	32

#### 今後の気象予報 (7月25日新潟地方気象台発表の3ヶ月予報より)

8月	平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みまたは高い確率とも40% 降水量は、平年並み40%
9月	天候は数日の周期で変わり、気温は、平年並みまたは高い確率とも40%



チェック! 土壌が軟らかく刈取り時にコンバインがぬかる恐れがある圃場は、飽水管理から間断灌水(田面が湿る程度)に切り替えましょう。これにより地耐力を確保し、土壌に必要な水分を保ちつつ田面を硬くすることができます。

## 2. 穂肥散布

### 2回目穂肥

(1回目の穂肥を施用していない場合は、確実に穂肥を実施しましょう)

出穂10日～7日前に稲姿・葉色から判断しましょう。

※草丈が長く、葉色が濃い場合は営農課までご相談下さい。

#### 2回目穂肥施肥基準

時期	施肥量	効果
・出穂10日～7日前 (幼穂長10～12cm) ・草丈85cm ・葉色3.5以下 (群落測定)	窒素成分 1.0～1.5kg (魚沼ロマン穂肥7～10kg) (魚沼ロマン有機穂肥10～15kg)	・登熟歩合の向上 ・千粒重の増大

※魚沼ロマン有機穂肥を施用する場合は、通常より3日程度早い施用が効果的です。

※穂肥は、収量・品質・食味を左右する重要な技術になります。多肥になり過ぎると「玄米中窒素濃度の増加による食味の低下」が考えられます。適正量施肥をお願いします。

## 3. 病害虫(いもち病・カメムシ類)防除

### (1) いもち病防除 ～葉いもちの発生を確認～

7月中旬以降、南魚沼地域にて葉いもちの発生が確認されています。葉色が濃い圃場では発生する場合がありますので見回りをお願いします。また、発生が認められた場合は必ず薬剤防除を実施してください。



薬剤名	施用時期	散布量(10a当り)	価格(税込)
ブラシン粉剤DL (3kg)	収穫21日前まで	3～4kg	<b>1,231円</b>
ブラシンプロアブル (500ml)	収穫30日前まで	1,000倍	<b>2,408円</b>

### (2) カメムシ類 ～注意報発令中～

塩沢、湯沢管内の病害虫発生予察調査において、昨年同様、平年よりも多くのカメムシ類が確認されています。特にアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量が多く、畦畔に雑草の多い場所では、より多く確認されています。今後、カメムシ防除を確実にいきましょう。



薬剤名	散布量(10a当り)	価格(税込)
Mrジョーカー粉剤 (3kg)	3～4kg	<b>1,382円</b>
MrジョーカーEW (500ml)	2,000倍	<b>5,810円</b>
スタークル粒剤 (3kg)	3kg	<b>3,391円</b>

※散布量は散布面積10a当りの散布量を厳守し、散布範囲は必ず本田に接する農道・畦畔を含めて下さい。不明な点は営農センター(782-1171)までお願いします。

#### 質問・疑問

**Q** カメムシ防除をしてないのですが、斑点米が出ても色彩選別機を使えば大丈夫ですか？

**A** 色彩選別機を使用しても斑点米を完全に除去しきれない場合があります。カメムシ防除には草刈り・薬剤防除等、総合的な防除が必要になります。例年、斑点米が混入する圃場では品質の向上のため防除を徹底しましょう。

## 4. 飽水管理の効果・注意点

### (1) 飽水管理の新たな目的 (カドミウム吸収抑制)

食品の安全・安心志向の観点から、「食品衛生法」で定める米のカドミウム含有量の基準値は0.4mg/kg(0.4ppm)と定められています。

飽水管理を行なうことにより、カドミウムの吸収を抑制しましょう。

### (2) カドミウムが吸収されやすい条件

① 土壌中の濃度が高い場合

② 土壌が酸化(乾燥)している場合

③ 土壌の酸性度(pH)が酸性に偏っている場合

※ 土壌中のカドミウム濃度が低い場合でも、②・③いずれかの条件下では吸収量が増加する可能性があります。

### (3) カドミウム吸収抑制方法 (飽水管理)

ほ場の乾田日数が多くなると、米に含まれるカドミウム含有量も多くなる傾向があります。田面を乾かし過ぎない管理(飽水管理)を行い、カドミウムが吸収されにくい土壌状態を保つようにしましょう。

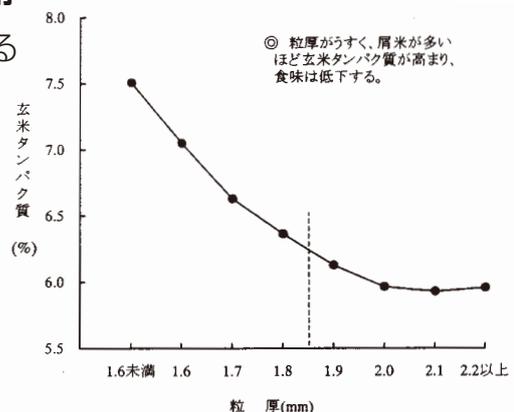
#### カドミウム吸収抑制方法(飽水管理)のポイント

- 出穂前25日～出穂後25日間(50日間)は、継続して実施
- 高温期に湛水状態が長期間続く場合は、根腐れしないように注意
- 刈取り時に地耐力が低下し、刈取りに支障がないように注意

#### 米選別機1.9mm網目への変更の目的と効果について

米の販売状況が厳しさを増しています。選ばれる産地として、品質向上が必要不可欠となってきています。JAでは今年度より、地域全体での米の品質高位平準化を目的に1.9mm以上の米選別機網目を使用した調製を推奨しております。網目交換による効果として以下のことが見込まれます。

- 未熟粒の混入割合が減少し、米の粒揃いが良くなります。整粒歩合が向上するので、検査等級の安定・向上が見込まれます。
- 粒厚が厚い米の割合が多くなるため、タンパク質含有量の割合が減少し、食味の向上が期待できます。



図VIII-21 玄米の粒厚別窒素含有率 (新潟農試)

消費者の方々から、選ばれる産地として更なる品質の向上、良食味米生産を目指しましょう、

## 秋野菜の作り方（白菜、キャベツ、大根、玉ネギ）

### ◎ハクサイ（白菜）年内穫り

種子の発芽適温は、18℃～22℃。冷涼な気候が適し、生育適温は20℃前後で、25℃以上では軟腐病などにかかりやすく、10℃以下では生育が緩慢になり5℃以下では生育が停止します。結球適温は一般に15℃～16℃です。

#### 1.播種時期

8月10日～25日頃までで、生育日数75日程度以上の品種は、8月10日～18日頃播種します。遅くなると、十分結球しないので、注意が必要です。

#### 2.おもな品種と特性

品種名	特 性
耐病60日	秋穫り早生品種で8月下旬播種ができる。60～65日で収穫できる極早生タイプ。
豊秋60日	黄芯系品種で、播種後60～65日で収穫可能なタイプ。夏蒔き秋冬収穫に適する。
空海65(CR) ／CR千秋65	根コブ病抵抗性品種の65日タイプ。
ストロング CR75	根コブ病抵抗性品種で食味も良い。75日～80日の中生品種。
王将／金将2号	85日タイプの晩生大玉種。



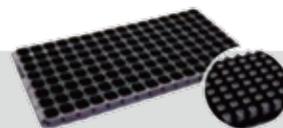
※品種名にCRと入っているものは、根こぶ病抵抗性品種ですので、ネビジン粉剤等の使用を抑えることができます。

#### 3.育苗

栽培方法には、種を畑に直接まく「直まき栽培」と、苗床を作ってから植える「移植栽培」の2つの方法があります。※根こぶ病予防には育苗時からの防除が必要です。

- 「直まき栽培」は、畝幅60～75cmでかまぼこ型の畝を作り、ビール瓶等で45～50cm間隔に軽く押しつけて3～4粒ずつ種を蒔き、種が見えない程度に覆土をします。更に切りわらやもみ殻を軽く一握りずつかぶせておくと乾燥防止になり、発芽そろいも良く、発芽後の降雨による土の跳ね上がり防止になります。本葉4～5枚で、1本立ちにします。
- 「移植栽培」は、128穴のセルトレーやポリポット(6～9cm)を使用します。セルトレーの場合は1粒ずつ蒔き、本葉2枚でポリポットに鉢上げし、本葉4～5枚時に植え付けます。ただし、大面積作付けの場合は、鉢上げしないで、本葉3枚程度で定植します。ポリポットの場合は3～4粒ずつ種をまき、本葉2枚で1本立ちし、本葉4～5枚時に植え付けます。

## セルトレー(128穴)育苗のポイント



- ①床土は、市販のプラグ培土(プラグメイト)を使用するとよい。
- ②床土は、セルトレーの穴に均一になるようにつめる。(つめ方が悪いと発芽不良になる。)
- ③播種したセルトレーは、育苗箱に乗せ、ブロックやアングル等で隙間を作り、その上に並べる。
- ④覆土は出来るだけ薄くする。
- ⑤播種後充分灌水し、新聞紙で被う。
- ⑥播種してから2~3日で発芽する。発芽したら新聞紙を早めに取り除く。
- ⑦灌水は朝1回とするが、高温乾燥時には、葉水程度に軽く灌水する。
- ⑧追肥は、育苗期間中に生育を見ながら、液肥400倍を1~2回程度施す。

## 4.本畑の準備

### 〈施肥例〉

(kg/10㎡)

肥料名	基肥量	追肥量		備 考
		1回目	2回目	
完熟堆肥	30.0			追肥1回目は定植10日後程度、活着したら施す 追肥2回目は定植1ヶ月後を目途に施す
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	1.0			
MMB燐加安	2.0			
NK化成		0.3	0.3	

◎定植1週間前までに肥料を混和して準備する。この際、根こぶ病予防には、フロンサイド粉剤400g/10㎡またはネビジン粉剤300g/10㎡を混和する。ただし、抵抗性品種(CR)の場合は軽減できる。軟腐病予防にオリゼメート粒剤を60~90g/10㎡全面混和しておく。ネキリムシ・ヨトウムシ予防にはダイアジノン粒剤5を40~60g/10㎡を混和しておく。

## 5.定植

は種後25~35日で定植する。本葉4~5枚程度の若苗で植えるほうが良い。

栽植密度 畝幅 140cm×株間 40cm 2条植え  
 もしくは 畝幅 75cm×株間 40cm 1条植え  
 早生はやや密植・中晩生は大きくなるので畝幅・株間を大きくする。

## 6.雑草・病害虫防除

雑草が心配な場合は黒マルチまたは、除草剤を使用する。

(1)除草剤の使用法(畑地1年生雑草に効果)

薬剤名	使用時期	10㎡当り使用量		使用方法	薬効など
		薬量	希釈水量		
ラッソー乳剤	定植8日後まで	2mℓ	1ℓ	株間散布	タデ科・アカザ科には効果が劣る
クレマート乳剤	定植前	2~3mℓ	1ℓ	全面散布	キク科・ツユクサ科には効果が劣る
クレマートU粒剤	定植前~直後	40~60g		全面散布	キク科・ツユクサ科には効果が劣る
トレファノサイド粒剤	定植前穴掘り前	40~60g		全面散布	ツユクサ・キク・アブラナ科を除く
ナブ乳剤	雑草生育期、収穫30日前まで	2mℓ	1ℓ	雑草茎葉散布	イネ科1年生雑草にのみ効果、スズメノカタビラは除く

※粒剤は乾燥時の効果が落ちます。使用時期は作物によって異なるので、ご注意ください。  
 除草剤別に適用作物が異なるのでご確認ください。

(2)害虫防除

- ◎アオムシ・コナガ・アブラムシ類予防には定植時に、オンコル粒剤5を1～2g/株、またはジェイエース粒剤(オルトラン粒剤)2g/株を植え穴に散布します。
- ◎植え付け直後は、コオロギ・ヨトウムシ・ネキリムシに茎を食害されやすいので、ネットを利用するか、またはデナポン5%ベイトを散布します。

◎キャベツ(甘藍) 年内穫り



1.播種時期～育苗は7月1日(No.6)号を参照ください。

2.本畑の準備

〈施肥例〉

(kg/10㎡)

肥料名	元基肥	追肥量		備 考
		1回目	2回目	
完熟堆肥	20.0			追肥1回目は定植10日後程度、活着したら施す 追肥2回目は定植1ヶ月後を目途に施す
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	1.0			
MMB燐加安	2.0			
NK化成		0.7	0.7	

※定植1週間前までに肥料を混和して準備しておく。この際、根こぶ病予防には、フロンサイド粉剤400g/10㎡またはネビジン粉剤300g/10㎡を混和しておく。ただし、抵抗性品種(CR)の場合は軽減できる。軟腐病予防にオリゼメート粒剤を60～90g/10㎡全面混和しておく。ネキリムシ・ヨトウムシ予防にはダイアジノン粒剤5を40～60g/10㎡を混和しておく。

3.定植

は種後25～35日で定植する。本葉4枚程度の若苗で植えるほうが良い。

栽植密度	畝幅	140cm×株間	40cm	2条植え
もしくは	畝幅	75cm×株間	40cm	1条植え

4.雑草・病害虫防除 ハクサイの項を参照のこと

★粒状苦土炭カル(M-10)について

石灰類資材です。酸度中和の場合、DL消石灰量の3割り増量が必要ですが、粒状なので散布しやすい。  
天然由来の炭酸カルシウム(炭カル)が主成分なので、マグクリーン(生石灰)のように長時間経過しなくてもよい資材なので、秋野菜には使いやすい。

品名	容量	形状	タイプ	アルカリ(%) (%)	苦土(Mg) (%)	使用量 (kg/10a)	DL消石灰を 1とすると
粒状苦土炭カル(MA-10)	20kg	粒	炭カル	55	10	130	1.3倍
マグクリーン (粒状生石灰)	20kg	粒	生石灰	100	30	70	0.7倍
DL消石灰	20kg	粉	消石灰	72	0	100	1.0倍

## ◎ダイコン(大根)

温度 基本的には、涼しい温度でよくできる作物です。  
 発芽温度15～35℃、10℃以下、40℃以上で発芽障害が発生します。  
 生育適温は17～20℃(昼間16～20℃、夜間8～15℃)です。  
 根の肥大適温(地温)13～18℃…5℃以下で生育が停滞・停止する。  
 30℃以上で生育が抑えられ、障害が出るようになります。

土壌条件 排水が良く耕土が深く大根が十分に育つ余裕があること。  
 保湿力のある砂地が良い物ができる。



### 1.播種時期

8月下旬～9月上旬(少し遅めに播種すると良い)

1穴に3～4粒、畑に直接タネをまき、本葉5枚までに1本に間引きます。

タネまき後、60日ぐらいで収穫できます。

### 2.品種と特性

品種名	特 性
耐病総太り	太りがよく、特にす入りが遅い良質の青首総太りです。肉質も良い。
秋 風 (耐病総太)	ゆっくりと太るため、特にす入りが遅く、長期間畑に置ける青首総太りです。ダイコン本来の味が楽しめる。
秋の郷 (耐病総太)	す入りが遅く、長期間畑に置ける青首総太りです。肉質も良く、寒さに強い。
秋の宴 (耐病総太)	葉が立ち性で暑さや病気に強く、早まきから遅まきまでできる。肌がきれいなす入りの遅い青首総太りダイコン。肉質も良い
耐病宮重	す入りの遅い青首の長太り型大根、総太りより長くなるので沢庵用に適する。深耕しないと曲がりやすくなる。
YRくらま	青首総太り系の大根で、萎黄病抵抗性品種です。
白秋/新八州	耐病性にすぐれ、良質・早太りです入りの少ない、青果・浅漬け兼用の白首種。生育旺盛で、曲がりか少なく、密植ができる。深耕しないと曲がりやすくなる。
夏 風	晩春～秋まで蒔ける、早太りの青首総太り大根。耐暑性があり萎黄病、ウイルス病、生理障害に強く晩春から蒔ける。

### 3.本畑の準備

#### 〈施肥例〉

(kg/10m<sup>2</sup>)

肥料名	元基肥	追肥量		備 考
		1回目	2回目	
粒状苦土炭カル(M10)	1.2			追肥は間引き終了後  堆肥は岐根に成りやすいので、完熟以外使わない。
苦土重焼燐	0.2			
MMB燐加安	1.0			
NK化成		0.2	0.2	

### 4.間引きのポイント

- 1.貝割葉が完全に開いたときに込み合ったところを間引く。
- 2.本葉2～3枚の時期に間引いて2本にする。
- 3.本葉3～5枚の時期に間引いて1本立ちにする。

## ◎タマネギ(玉葱) 秋植え翌夏穫り

夏～初秋蒔きで翌年の7月穫りの作型です。耐寒性が強く、冷涼な気候を好み、肥えた土壌を好みます。酸性に弱く、PH6.3以上でよく育ちます。

### 1.播種時期

8月中旬～下旬 遅くなると、苗が太くならず、越冬できなくなります。

### 2.おもな品種と特性

品種名	特 性
O・K黄玉葱	球重290g、甲高で作りやすく、12月まで貯蔵できる交配種。
ネオアース	球重250～350g、甲高で作りやすく、翌3月まで貯蔵できる交配種。貯蔵性が高く、固めなのであまり生食向きではない。
交配貯蔵玉葱	球重250～350g、作りやすく12月まで貯蔵できる交配種。
玉ねぎラピュタII	球重300～350g、作りやすく、10月頃まで貯蔵できる交配種。
泉州中高黄玉葱	球重300g、甲高で作りやすく、10月頃まで貯蔵できる。古くから作られている固定種。



### 3.育苗

◎本畑10㎡で1㎡の苗床が必要、石灰200g・化成100gを散布し混和しておく。

◎種10～20mℓを5cm間隔の条播で5mm間隔で蒔き、薄く覆土をし、さらにその上に敷きワラをし、発芽したら取る。

◎間引き1回目は子葉が伸びきった頃に混んだ所を、2回目は本葉2枚頃に株間3cm程度に揃える。

### 4.本畑の準備

#### 〈施肥例〉

(kg/10㎡)

肥料名	基肥量	追肥		備 考
		1回目	2回目	
堆肥	15.0			追肥1回目は植え付け20日後 追肥2回目は融雪直後
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	0.3			
MMB燐加安	1.0			
NK化成		0.2	0.4	

### 5.定植

◎必要苗は250～350本/10㎡で、10月上～下旬に植えつける。

◎畝間120～140cm、畝幅90cm×株間12cm、4～5条植えにする。

◎苗の太さは鉛筆程度、6～7mmがちょうどよい。細いと冬越しできない。太すぎるとトウ立ちや分球する。

◎雑草が心配な場合は、ポリマルチを利用する。